



岡山大学記者クラブ 御中

令和 4 年 11 月 30 日  
岡 山 大 学

## 口の健康を維持するために定期歯科健診受診の向上に必要なことは何か？

### ◆発表のポイント

- ・国民皆歯科健診<sup>(注1)</sup>が話題となっていますが、現在の定期歯科健診の受診率は低いままです。
- ・定期歯科健診の受診の意志に影響を及ぼす因子を調べるため、歯磨き習慣などの口腔衛生行動、健康信念モデル<sup>(注2)</sup>およびリスク回避性<sup>(注3)</sup>との関連について調査しました。
- ・定期歯科健診受診の意志は口腔衛生行動、健康信念モデル、それぞれとの関連があり、リスク回避性とは関連はみられませんでした。
- ・関連のある因子を理解することによって今後定期歯科健診の受診率の向上を目指すことができる可能性があります。

口の健康を維持していくためには定期歯科健診の受診が大事になっていきます。しかし、高校卒業後は、歯科健診を受けるのは自分の意志次第になるため継続して受診する人が少ないのが現状です。そこで、定期歯科健診の受診の意志に影響を及ぼす因子を調べることを目的に、岡山大学の学生を調査しました。岡山大学病院歯科・予防歯科部門の角田伊知郎医員、岡山大学学術研究院医歯薬学域予防歯科学分野の森田学教授らの研究グループは口腔衛生行動、健康信念モデルが定期歯科健診の受診の意志に関連があること、そしてリスク回避性は関連がないことを明らかにしました。本研究成果は、令和4年10月26日、学術雑誌「*International Journal of Environmental Research and Public Health*」にオンライン掲載されました。

本研究の結果から、歯科健診受診の意志に関連する因子に基づいたアプローチをしていくことで、今後の歯科健診の受診行動を改善し、口の健康が良くなる人が増えていく可能性があります。

### ◆研究者からのひとこと

予防歯科で歯科健診をする機会がとても多く、色々な人の口の中を日々見ています！若い人のむし歯や歯周病は比較的少ないですが、大学生の間にも増えてしまいます。

若いころから予防に目を向けていないことを勿体無く感じます。少しでも定期的に口の中をチェックして健康な歯を維持していく人が増えると良いと思います。



角田医員



## PRESS RELEASE

### ■発表内容

#### <現状>

近年、口の健康が、糖尿病など全身の健康状態に関連していることが知られてきています。それにもかかわらず、日本では歯科健診受診率が低く、早期発見による口の健康を確保することに関心がある人が少ないのが現状です。岡山大学の学生の歯科健診受診率も高くありません。さらに平成20年度から健康増進法に基づいて行われた歯周病の状態を評価する歯周疾患検診受診率は数%です。国も現在の状況を改善するために将来的に国民が全員歯科健診を受診できる環境づくりを目指しています。

また、これまで歯科健診受診の意志にはどういった要因が影響するのかが明らかにされていませんでした。

#### <研究成果の内容>

岡山大学病院予防歯科の角田医員、岡山大学大学院医歯薬学総合研究科予防歯科学分野の森田教授らは、岡山大学の学生748人を対象に横断調査を行いました。その結果、歯科健診の受診の意志がある人は「口腔衛生行動が良い人」(オッズ比<sup>(注4)</sup>: 1.616)や「歯科健診を受診すると良いことがあると感じている人」(オッズ比: 1.683)ということが明らかになりました。リスク回避性は関連がみられませんでした。



図：歯科健診の受診意志に関わる要因

#### <社会的な意義>

定期的に歯科健診を受けることにより、むし歯や歯周病といった口の中の疾患を早期に発見できる可能性があります。早期に発見することができれば治療の回数や処置の負担も少なくすることが出来て将来的に残せる歯も多くなっていきます。そして残せる歯が多くなれば高齢者になっても美味しくご飯を食べることができ、全身の健康を整える上でも重要であることが考えられます。仮に国民皆歯科健診の制度ができたとしても、定期歯科健診を受けない方はおられます。そのような方に対して受診してもらうように働きかけることも可能かもしれません。



## PRESS RELEASE

### ■論文情報

論文名 : The Impact of Oral Health Behaviors, Health Belief Model, and Absolute Risk Aversion on the Willingness of Japanese University Students to Undergo Regular Dental Check-Ups: A Cross-Sectional Study

掲載紙 : *International Environmental Research and Public Health*

著者 : Ichiro Sumita, Naoki Toyama, Daisuke Ekuni, Takayuki Maruyama, Aya Yokoi, Daiki Fukuhara, Yoko Uchida-Fukuhara, Momoko Nakahara, Manabu Morita

DOI : 10.3390/ijerph192113920

URL : <https://doi.org/10.3390/ijerph192113920>

### ■補足・用語説明

#### (注1) 国民皆歯科健診

政府は全国民に毎年の歯科健診を受けてもらう「国民皆歯科健診」の導入に向けて検討する方針をまとめました。歯の健康を維持して他の病気の誘発を抑え、健康寿命を延ばすことを目指しています。

#### (注2) 健康信念モデル

健康信念モデルは健康行動を説明するためのもので、個人の主観的な認識、問題の重大性、行動の利益・利点、行動の障害という4つの構成要素からなります。人が健康行動をする時に、これらの要因が関わることによって、行動の促進や阻害に影響を与えます。

#### (注3) リスク回避性

リスク回避性は経済学、行動経済学、心理学などのさまざまな分野で使用されています。リスク回避性とは、その人がどれだけリスクを嫌っているかを示します。リスク回避性が高い人は一般的に健康リスクを伴うような行動（タバコや飲酒など）を回避する傾向があります。

#### (注4) オッズ比

オッズとは、統計学における事象の起こりやすさを表す指標で、1より大きいと事象が起こりやすく、1より小さいと起こりにくいと言えます。

#### <お問い合わせ>

岡山大学学術研究院医歯薬学域（歯）

予防歯科学 教授 森田 学

（電話番号）086-235-6712（FAX）086-235-6714



岡山大学は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。